



2013年3月期 決算説明会

ディーバイエックス株式会社

2013年5月17日

目次

	業績概要	・・・ 3
	会社概要	・・・ 18
	13年3月期の成果	・・・ 25
	14年3月期の取り組みと 中期的方針	・・・ 30
	参考資料	・・・ 40

業績概要

業績ハイライト



26期連続の増収増益

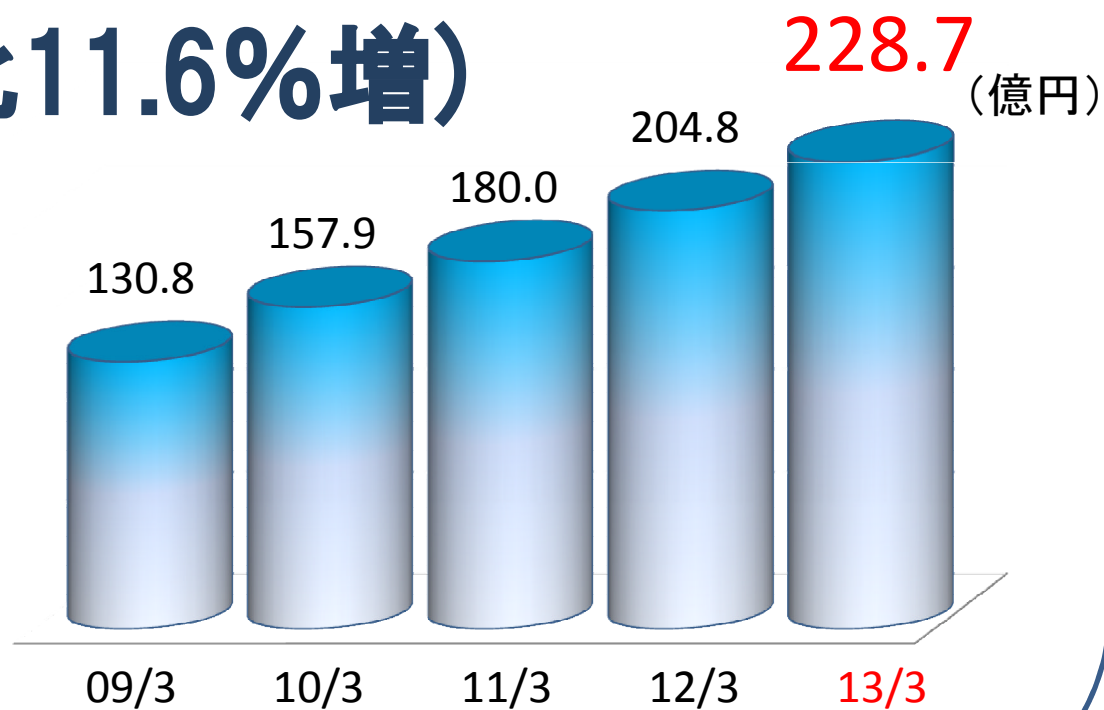


上場以来連続増配

売上高



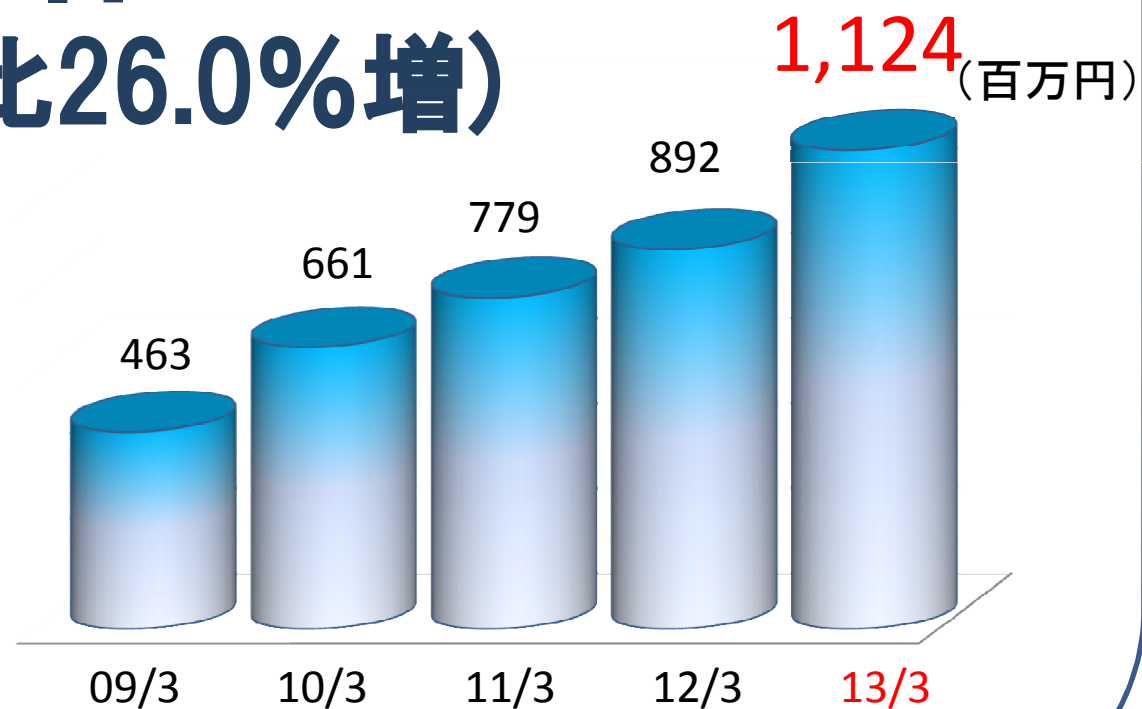
連続増収 (前期比11.6%増)



営業利益



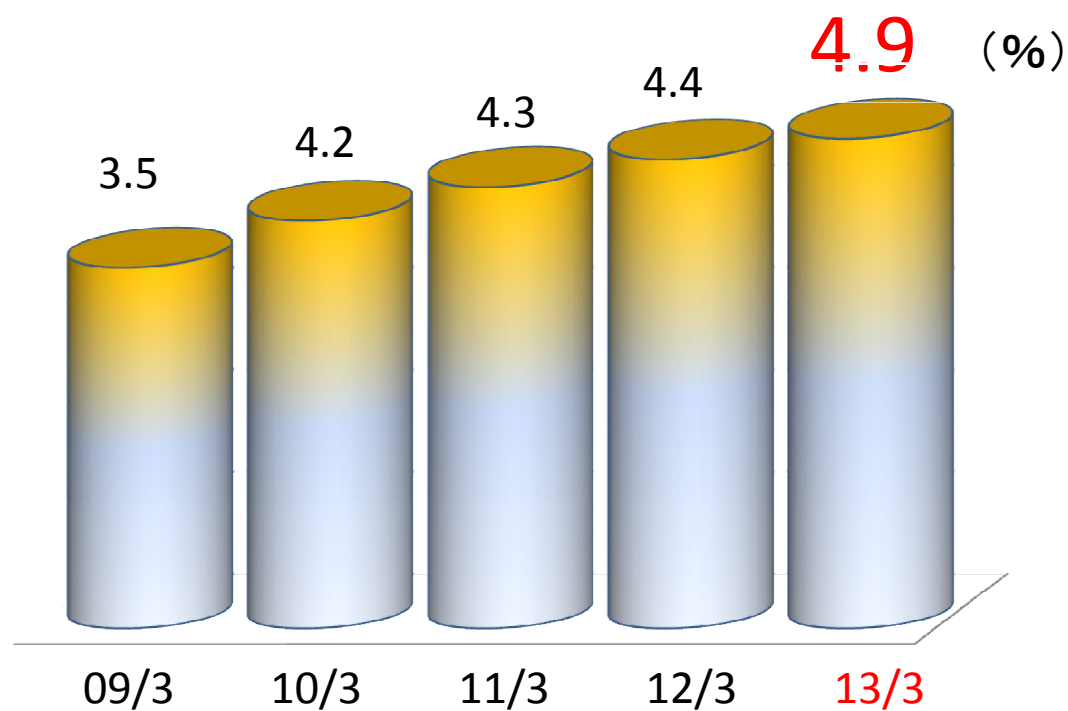
連続増益 (前期比26.0%増)



營業利益率



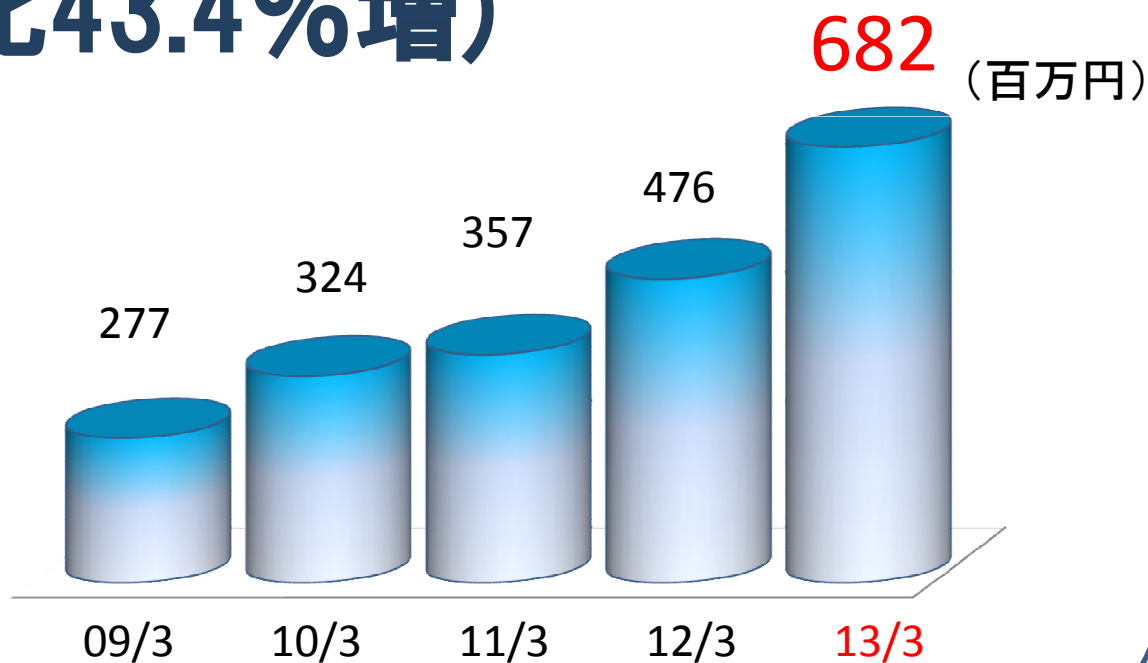
過去最高水準



当期純利益



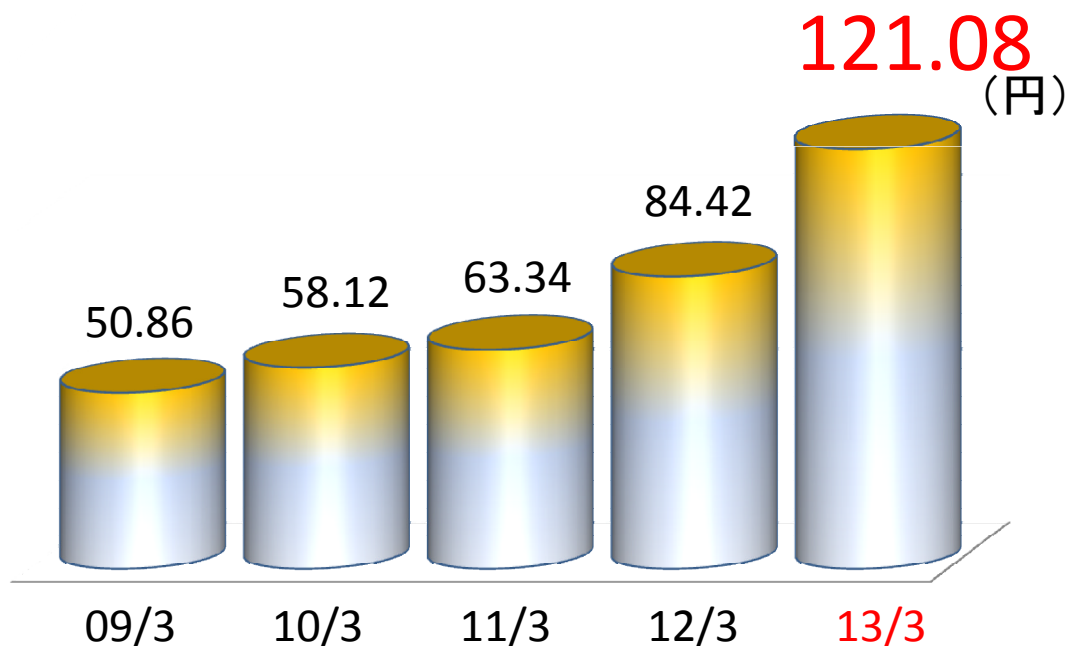
過去最高更新
(前期比43.4%増)



EPS

1株当たり当期純利益

利益成長継続中



※2011年10月1日および2012年10月1日に
実施した1:2株式分割の影響を考慮

業績サマリー①～要約損益計算書～

(単位:百万円)



	11/3期	12/3期	13/3期	前年比
売上高	18,000	20,487	22,872	111.6%
不整脈事業	14,688	16,580	18,830	113.6%
虚血事業	2,918	3,210	3,477	108.3%
売上総利益	3,425	3,727	4,089	109.7%
営業利益	779	892	1,124	126.0%
経常利益	784	873	1,106	126.7%
当期純利益	357	476	682	143.4%

- 償還価格の引下げにかかわらず、販路の拡大・不整脈事業と虚血事業の融合などにより、売上高は前年比11.6%増
- 営業利益は前年比26.0%増、当期純利益は前年比43.4%増の大幅増益

業績サマリー②～要約貸借対照表～

(単位:百万円)

勘定科目	12/3期	13/3期	差異	勘定科目	12/3期	13/3期	差異
現金及び預金	2,231	3,188	956	買掛金	4,746	5,351	605
受取手形及び売掛金	5,319	5,489	169	1年以内返済長期借入金	171	118	△ 52
商品	531	470	△60	未払法人税等	287	255	△ 32
その他	211	196	△14	賞与引当金	130	162	32
貸倒引当金	△ 6	△ 18	△11	その他	274	292	17
流動資産合計	8,287	9,326	1,039	流動負債合計	5,609	6,179	570
有形固定資産	215	242	27	長期借入金	189	71	△118
無形固定資産	58	42	△15	退職給付引当金	109	127	17
投資有価証券	167	193	26	その他	74	76	2
差入保証金	94	105	11	固定負債合計	373	275	△98
その他	128	85	△43	負債合計	5,983	6,455	471
貸倒引当金	△ 26	—	26	株主資本	2,937	3,521	584
投資その他の資産合計	363	384	21	評価換算差額等	3	19	16
固定資産合計	637	670	32	純資産合計	2,941	3,541	600
資産合計	8,924	9,996	1,072	負債純資産合計	8,924	9,996	1,072

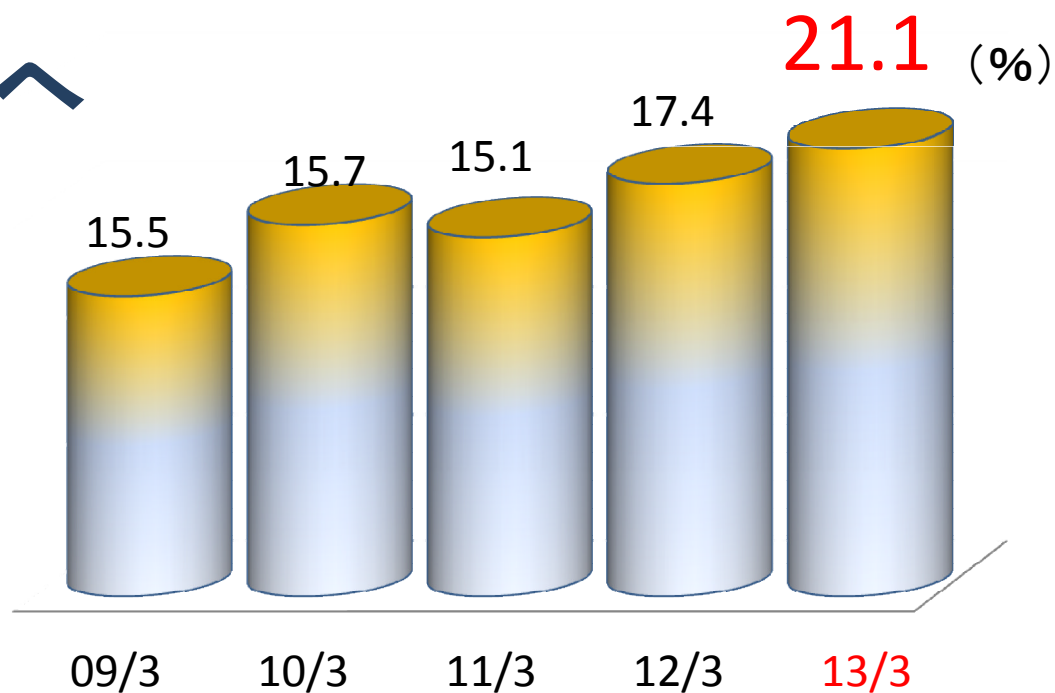


- 売上高の増加に伴い、売上債権及び仕入債務が増加
- 自己資本比率は、35.4%(前期末32.9%)

ROE

自己資本当期純利益率 効率経営に向け順調推移

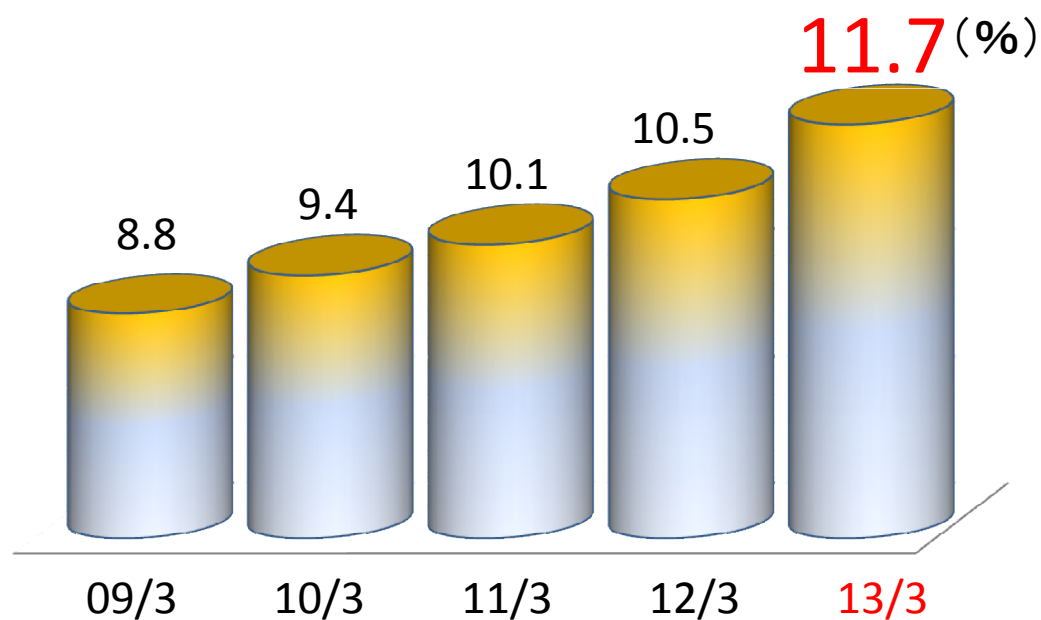
ROE20%超へ



ROA

総資産経常利益率

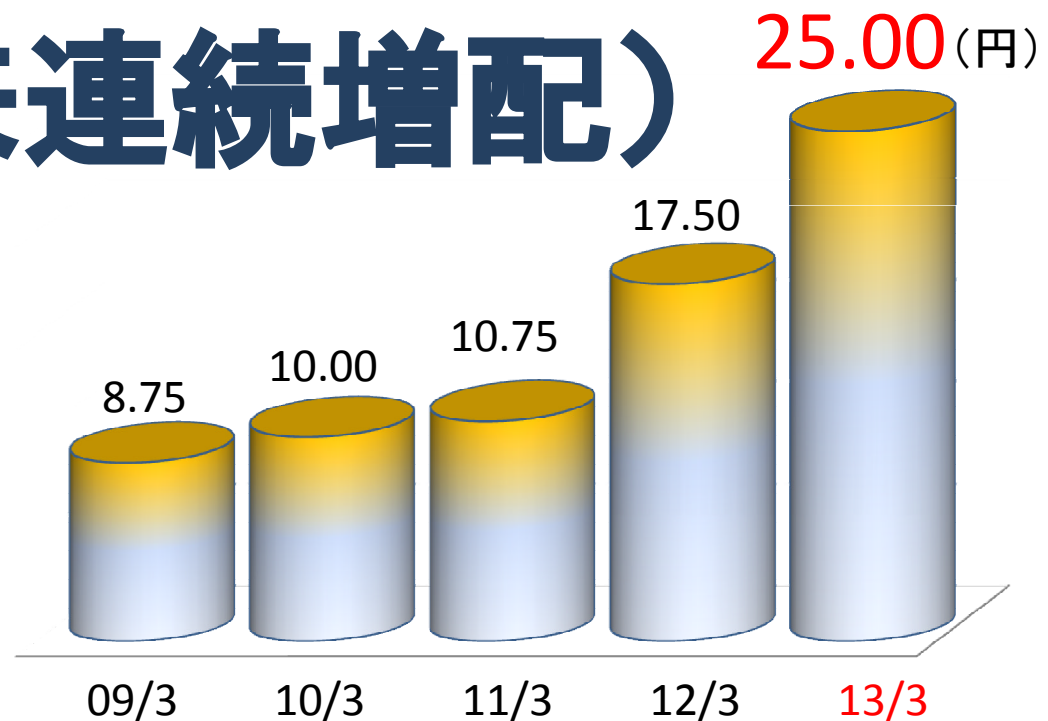
効率経営に向け順調推移



配当政策

配当性向20%以上目途

実質7円50銭増配
(上場以来連続増配)



※2011年10月1日および2012年10月1日に
実施した1:2株式分割の影響を考慮

流動性向上

株式分割

2011年10月 1:2

2012年10月 1:2

株式分売

2011年6月 発行済株式の約5.0%

2012年2月 発行済株式の約1.1%

2012年11月 発行済株式の約5.0%

約11.1%



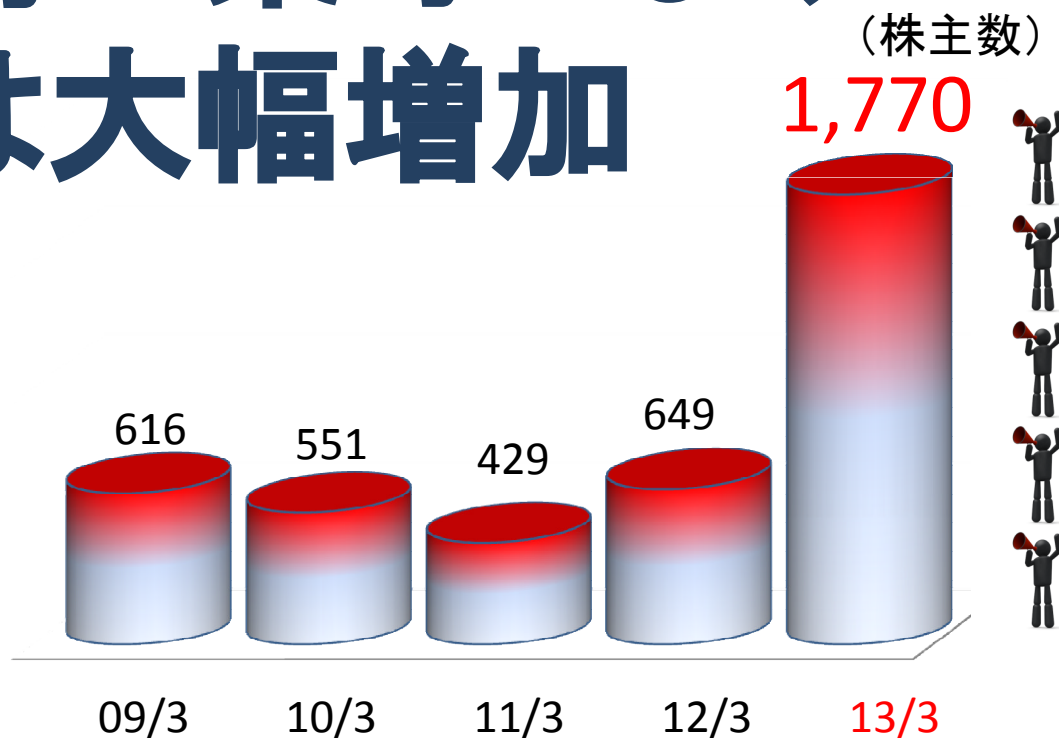
株主優待

単元株主に
1,000円のクオカードを
配布(3月末権利確定)



株主数推移

流動性向上策等により
株主数は大幅増加



会社概要

会社紹介

1986年4月 創業

28期目

医療機器販売会社

主要事業

ひとに優しい
医療の提供

不整脈事業

販売代理店（卸売）

虚血事業

国内総代理店（輸入）

売上構成

不整脈事業 82.3%

虚血事業 15.2%

その他 2.5%

粗利益率

不整脈事業 14.0%

虚血事業 39.4%

主な取り扱い医療機器

不整脈事業

医療機器の販売代理店（卸売）



ペースメーカー

ICD

CRT-D

アブレーションカテーテル

電極カテーテル

主な取り扱い医療機器

虚血事業

医療機器の国内総代理店（輸入）



自動造影剤注入装置 (ACIST)
エキシマレーザ血管形成システム
PCIバルーンカテーテル
PTAバルーンカテーテル

13年3月期の成果

13年3月期の成果



不整脈：エリア拡大



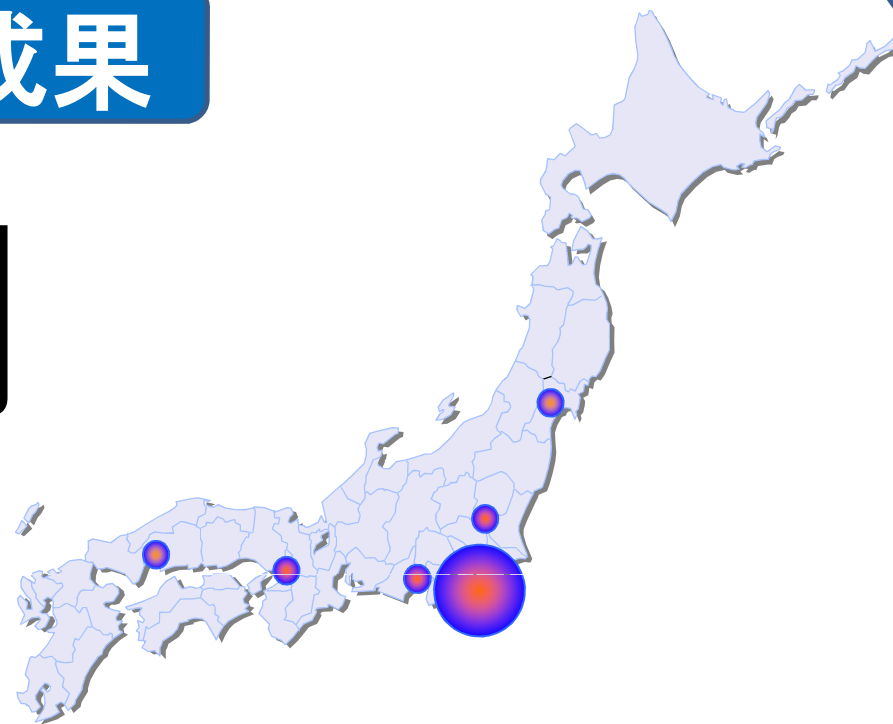
虚血　　：新製品販売



販管費：効率性重視

不整脈事業の成果

全国展開



関東6拠点＋重要戦略拠点

①広島②大阪③静岡④栃木⑤宮城

虚血事業の成果

自動造影剤注入装置

ACIST



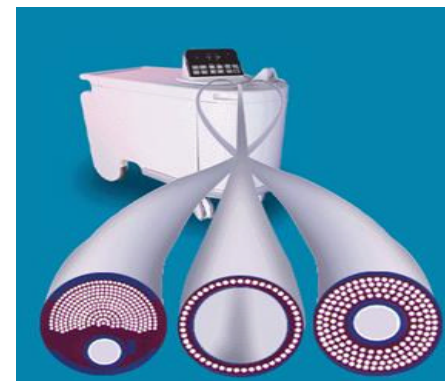
2000年発売以来、累計販売台数500台突破。
対象医療施設の約2/3が自動造影剤装置を導入、その48%がACISTを利用(当社調べ)。

ステージは成熟期へ ➡ 本体販売(リプレイス)
および消耗品販売

虚血事業の成果

エキシマレーザ

2012年7月 コロナリー(冠動脈治療用)カテーテル
保険適用



本体

リード抜去用カテ販売数

コロナリーカテ販売数

9台販売

前期比 ↑ 約80%

前期比 ↑ 約15倍

ステージは普及期へ ➡ 本体拡販および
本体メンテナンス

14年3月期の取り組みと 中期的方針

14年3月期の取り組み



不整脈：エリア拡大継続



虚血　：新製品販売継続



製品パイプライン維持

不整脈事業の今期取り組み

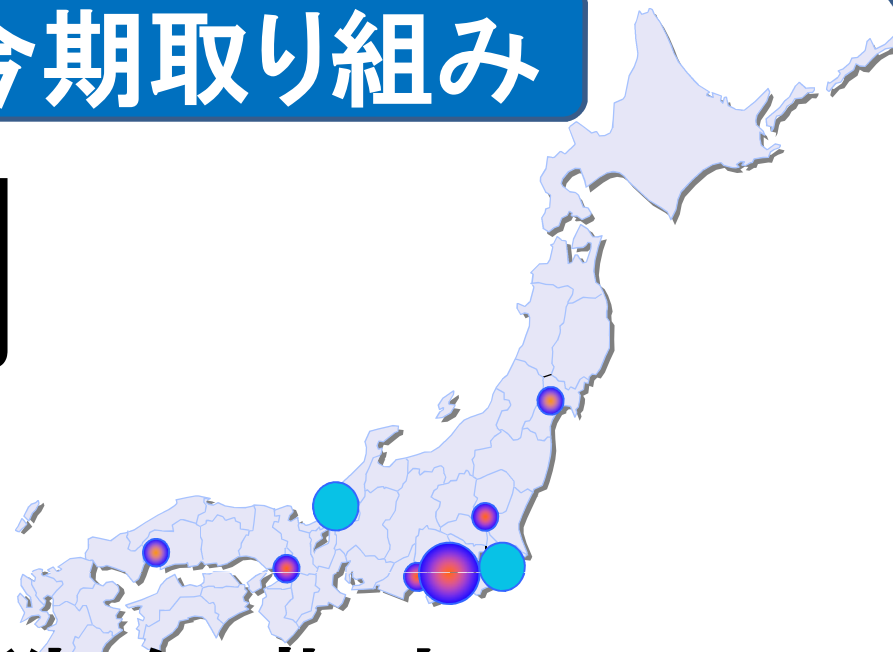
アブレーションサポート を推進



※アブレーション=心筋焼灼術 参考資料48頁

不整脈事業の今期取り組み

全国展開



関東6拠点＋重要戦略7拠点

①広島②大阪③静岡④栃木⑤宮城

＋⑥福井(13年4月新設)

＋⑦開設準備中

不整脈事業の中期的方針

全国展開継続 専門技術営業強化

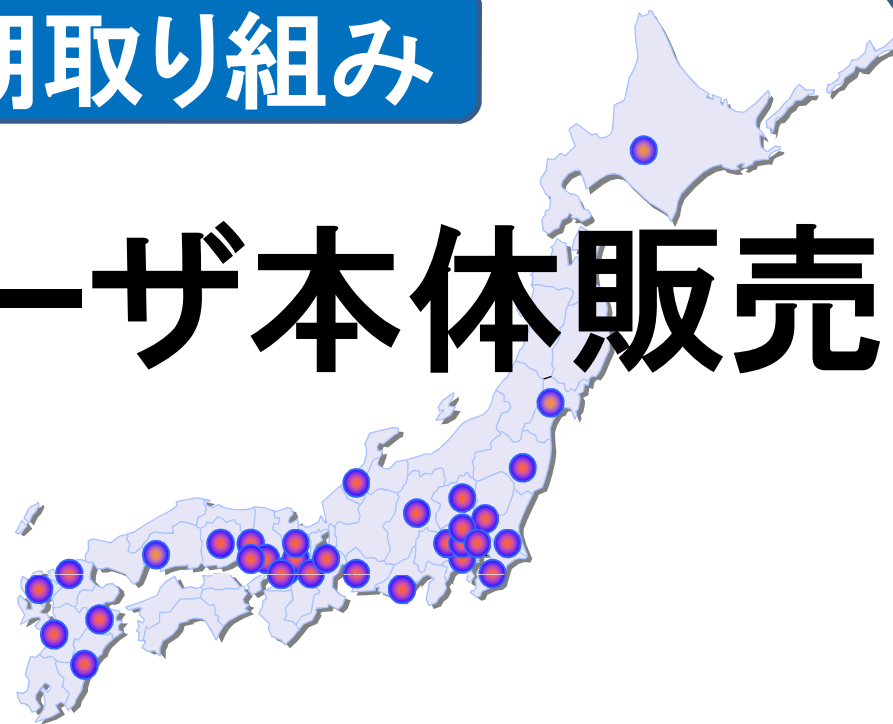


アブレーション

デバイス

虚血事業の今期取り組み

エキシマレーザ本体販売 を推進



本体導入

前期31施設を今期 **50施設** へ

※エキシマレーザ 参考資料51頁・52頁

虚血事業の今期取り組み



製品パイプライン維持



下肢治療用レーザーカテーテルの治験

薬事承認にむけ総額2億円を
今期および来期に使用する予定

虚血事業の中期の方針

製品パイプライン 維持のための投資



低侵襲医療



ニッチトップ

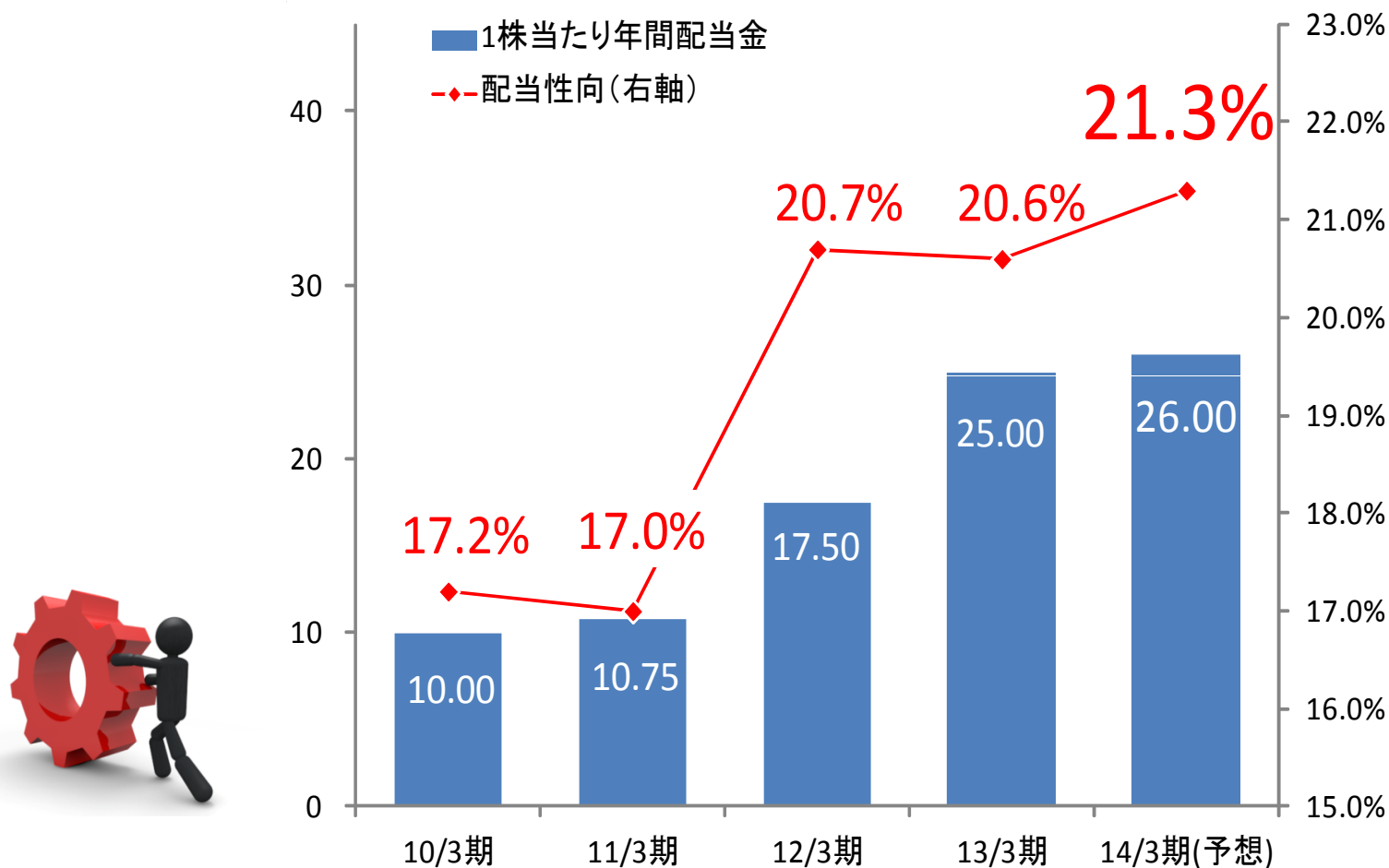
14年3月期 通期業績予想



	13/3通期	14/3通期	前年比
売上高	22,872	24,961	109.1%
不整脈事業	18,830	20,294	107.8%
虚血事業	3,477	3,791	109.0%
その他	564	876	155.3%
営業利益	1,124	1,161	103.3%
経常利益	1,106	1,158	104.7%
当期純利益	682	687	100.7%

- 不整脈事業の拡大、虚血事業の強化により、売上高は前年比**109.1%**
- 急激な円安の進行により、輸入商品の仕入単価は増加
- 新規商品の薬事関連費用の計上による費用増加

14年3月期 配当予想

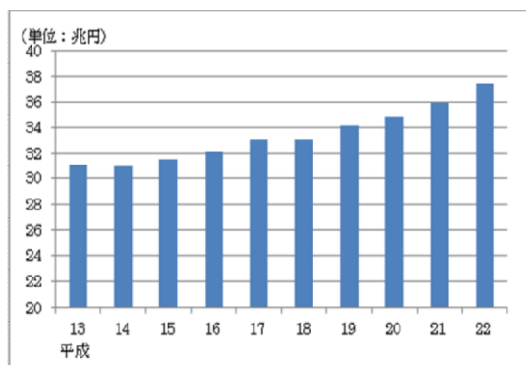


配当性向20%を目途とし、業績向上を通じた安定配当を目指す

竹貝カサ

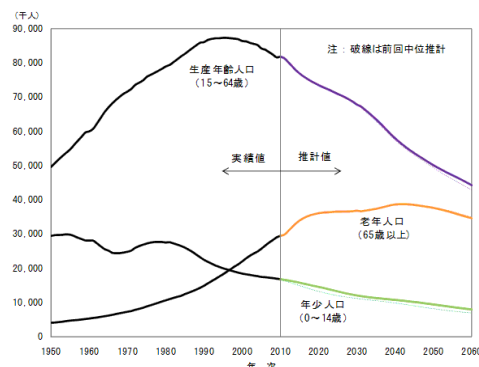
国民医療費

● 国民医療費の推移（表1）



資料：厚生労働書ホームページ
「平成22年度 国民医療費の概況」より抜粋
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-iryohi/10/index.html>

● 日本の将来推計人口（表2）



資料：国立社会保障・人口問題研究所ホームページ
「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」より抜粋
<http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/newest04/sh2401top.html>

わが国の国民医療費は年々増加し、平成22年度で約37兆円に達しており（表1）、今後、急速な高齢化社会の到来（表2）だけでなく、生活環境の変化による生活習慣病を中心とした慢性疾患型疾病の増加などにより、国民医療費はますます増大するものと推測されております。加えて、今後、所得に対する負担率の増加が見込まれており（表3）、このため診療報酬体系の見直しや保険償還価格の引き下げなど、政府の医療費抑制政策は一層加速するものと考えられております。

● 国民給付費の将来見通し（表3）

	2006年度 (平成18) 予算ベース	2010年度 (平成22)	2015年度 (平成27)	2025年度 (平成37)
改革後	27.5 兆円	31.2 兆円	37 兆円	48 兆円
国民所得比	7.3%	7.4% ～ 7.7%	8.0% ～ 8.5%	8.8% ～ 9.7%
GDP比	5.4%	5.4% ～ 5.6%	5.8% ～ 6.1%	6.4% ～ 7.0%
改革実施前	28.5 兆円	33.2 兆円	40 兆円	56 兆円
国民所得比	7.6%	7.9% ～ 8.2%	8.7% ～ 9.2%	10.3% ～ 11.4%
GDP比	5.5%	5.8% ～ 5.9%	6.3% ～ 6.6%	7.5% ～ 8.2%
国民所得	375.6 兆円	403 ～ 420 兆円	432 ～ 461 兆円	492 ～ 540 兆円
GDP	513.9 兆円	558 ～ 576 兆円	601 ～ 634 兆円	684 ～ 742 兆円

資料：厚生労働書ホームページ
「医療費の将来見通しに関する検討会」資料より抜粋
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/07/s0701-2.html>

医療機器・用品市場

●医療機器・用品の末端マーケットサイズの推移（表4）

単位：億円、%（ ）内は伸び率

	平成19 年度	*平成20 年度	平成21年 度	*平成22 年度	平成23 年度 (推測)	*平成24 年度 (予測)
末端マーケットサイズ	26,380 (-0.3)	26,250 (-0.5)	26,800 (2.1)	27,240 (1.6)	27,000 (-0.9)	27,150 (0.6)
①卸・小売業者直販分	22,520 (-0.0)	22,550 (0.1)	23,340 (3.5)	23,890 (2.4)	23,650 (-1.0)	23,800 (0.6)
うち31,32業種※の 直販分	18,930 (0.4)	19,150 (1.2)	19,890 (3.9)	20,540 (3.3)	20,300 (-1.2)	20,450 (0.7)
②メーカー・輸入商社直販分	3,860 (-1.5)	3,700 (-4.1)	3,460 (-6.5)	3,350 (-3.2)	3,350 (0.0)	3,350 (0.0)

*は診療報酬・薬価改定年

資料：(株)アールアンドディ「医療機器・用品年鑑 2012年版 NO.1」

※31業種：医療機器卸・小売

32業種：医療用品卸小売

●疾病別医科診療医療費（表5）

傷病分類	平成22年度		平成21年度	
	推計額 (億円)	構成割合 (%)	推計額 (億円)	構成割合 (%)
医科診療医療費				
総数	272,228	100.0	262,041	100.0
循環器系の疾患	56,601	20.8	54,350	20.7
新生児	34,750	12.8	33,494	12.8
呼吸器系の疾患	21,140	7.8	20,369	7.8
筋骨格系及び結合組織の疾患	20,263	7.4	19,505	7.4
内分泌、栄養及び代謝疾患	19,828	7.3	18,700	7.1
その他の	119,646	44.0	115,624	44.1
65歳未満				
総数	116,532	100.0	112,352	100.0
新生児	14,605	12.5	13,936	12.4
循環器系の疾患	13,934	12.0	13,296	11.8
呼吸器系の疾患	12,389	10.6	12,215	10.9
精神及び行動の障害	11,402	9.8	11,063	9.8
腎尿路生殖器系の疾患	8,477	7.3	8,346	7.4
その他の	55,726	47.8	53,497	47.6
65歳以上				
総数	155,696	100.0	149,689	100.0
循環器系の疾患	42,668	27.4	41,054	27.4
新生児	20,146	12.9	19,558	13.1
筋骨格系及び結合組織の疾患	12,954	8.3	12,435	8.3
内分泌、栄養及び代謝疾患	11,717	7.5	11,093	7.4
腎尿路生殖器系の疾患	10,913	7.0	10,955	7.3
その他の	57,299	36.8	54,593	36.5

資料：厚生労働省ホームページ「平成22年度 国民医療費の概況」より抜粋
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-iryohi/10/index.html>

国民医療費のなかで医療機器・用品（医療機関、大学・研究所向け）の占める割合を見てみると、末端マーケットサイズで平成5年度にはじめて2兆円を突破いたしました。その後政府の医療費抑制策を受け高額診療機械や保険償還価格の大幅な見直しが行われており、直近においてもマーケット規模は2兆6千億円から2兆7千億円台で概ね横ばいの状態で推移しております（表3）。こうした中で、当社がメインターゲットとしている循環器系疾患は、当面人口増加が予想される65歳以上の高齢者において急増する疾病だけに、高齢化社会の到来により患者数は大きく拡大していくものと予想され、価格面では他の医療機器・用品と同様に医療費抑制策の影響を受けて下落傾向にあるものの、市場そのものは大きく拡大していくものと予想されております（表4、表5）。

不整脈事業(売上高の約82%を占める事業)の市場

不整脈事業(販売代理店業)の市場

●疾病別医科診療医療費（表6）

不整脈とは、心臓を動かす刺激の発生または刺激が伝わる伝導路の異常によって心臓のリズムが乱れる疾病のことで、脈が遅くなる「徐脈」、速くなる「頻脈」、リズムが不規則になって脈が飛ぶ「期外性収縮」の3つに大別されます。原因としては、先天的なものの以外に高齢化や喫煙、ストレスなどによって引き起こされるといわれております。不整脈事業の市場は、こうした高齢化や生活スタイルの変化に伴う患者数の増大、新商品開発による適応患者の増加により安定した拡大を続けております（表6）。

商品	平成20年		平成21年		平成22年		平成23年		平成24年 (予測)	
	※	伸び率		伸び率	※	伸び率		伸び率	※	伸び率
心臓ペースメーカ	38,200	-6.0	43,690	14.4	40,645	-7.0	40,881	0.6	38,525	-5.8
I C D / C R T - D	18,970	5.4	20,850	9.9	23,479	12.6	25,745	9.7	28,173	9.4
アブレーションカテーテル	4,478	30.1	6,191	38.3	7,689	24.2	9,579	24.6	11,334	18.3
電極カテーテル (検査用)	13,310	6.2	14,620	9.8	16,125	10.3	15,160	-6.0	15,055	-0.7
リード類	12,224	1.1	13,296	8.8	13,310	0.1	13,718	3.1	14,062	2.5
合計	87,182	0.5	98,647	13.2	101,248	2.6	105,083	3.8	107,149	2.0

（参考）当社売上高（実績）

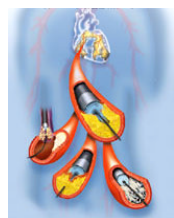
全社	13,080	11.4	15,793	20.7	18,000	14.0	20,487	13.8	22,024	7.5
内不整脈事業	11,290	11.1	13,581	20.3	14,688	8.2	16,580	12.9	17,918	8.1

虚血事業(売上高の約15%を占める事業)の市場

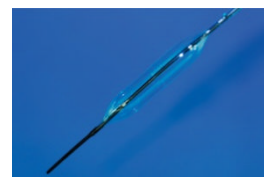
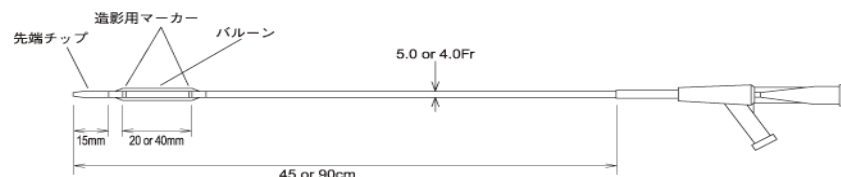
虚血事業(国内総代理店業)の市場

虚血性疾患は、血管が詰まったり細くなったりして起こる疾病で、心臓の冠動脈が原因で起こる心筋梗塞や狭心症、脳の血管が原因で起こる脳梗塞等がその代表的なものです。原因となる動脈硬化は、糖尿病や高血圧、高脂血症等によって進行し、肥満や喫煙、運動不足、ストレスの多い生活も動脈硬化を促進させるといわれています。

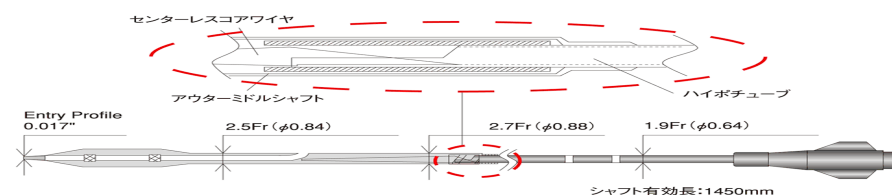
当社は、輸入総代理店として医療機器を販売しておりますが、医療機器として国内流通させるためには薬事法に基づき厚生労働省の承認が必要になります。



RADPAD®
X-Ray Protection Shield
ラドパッド®エックス線防護シールド



**RADCAP
RADNEK**
X-Ray Protection Shield
エックス線防護シールド



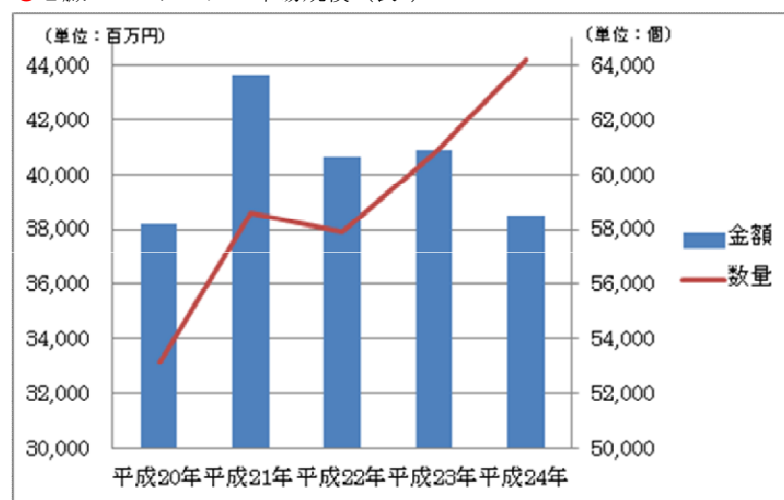
心臓ペースメーカー(不整脈事業)

心臓ペースメーカー



© Medtronic, Inc. 2009. All Rights Reserved.

●心臓ペースメーカーの市場規模 (表7)



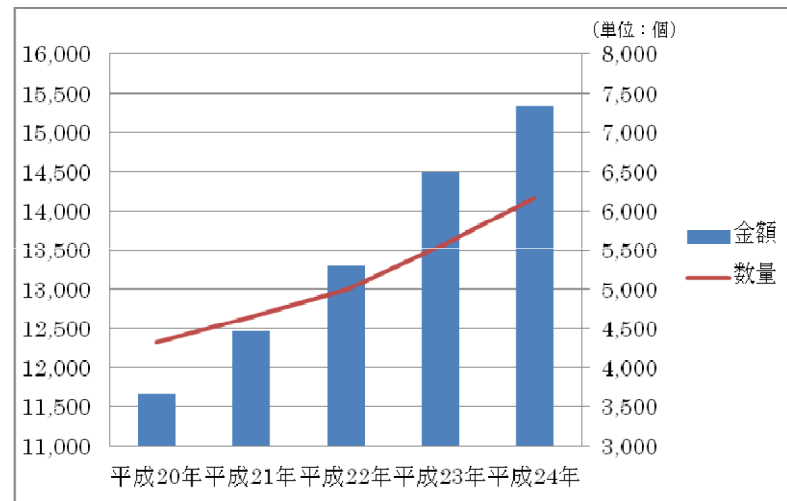
資料：㈱アールアンドディ「医療機器・用品年鑑 2012年版 No. 1」より抜粋 (平成24年は予測)

心臓ペースメーカーは、不整脈のうちでも、主に徐脈の治療に使用されますが、同市場は、数量ベースでは増加基調が続いているものの、償還価格の引き下げによる影響を受けており、直近の市場規模は400億円前後で推移しております。平成24年4月に行われた償還価格の改定においても、デバイス全体の平均で13%程度の引き下げが行われたため、市場規模は5.8%縮小するものと予想されております(表7)。

今後の見通しとしては、償還価格の低下傾向は続くと思われるものの、引き続き高齢化等による患者数の増加により、数量の伸びが予想されるとともに、新しい機能が付加された商品が市場に登場することで既存商品より高い償還価格が付くことも考えられることから、市場規模は一定水準を維持していくものと考えられます。

ICD(不整脈事業)

● ICDの市場規模 (表8)



資料：㈱アールアンドディ「医療機器・用品年鑑 2012年版 No. 1」より抜粋 (平成24年は予測)

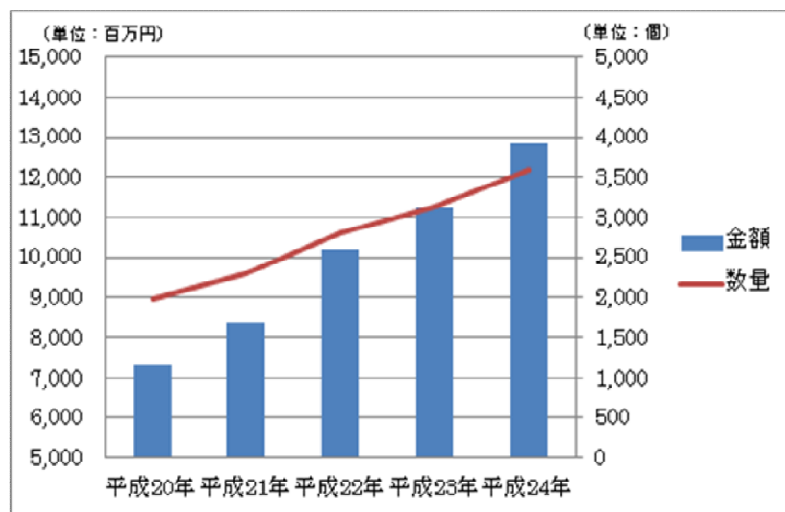
ICD(植込み型除細動器)



心臓ペースメーカーが徐脈の治療に使用されるのに対して、ICD(植込み型除細動器)は頻脈の治療に用いられております。同商品は、平成8年4月の診療報酬改定で保険適用となっており、心臓ペースメーカーと比較すると新しい商品ですが、適応患者の増加や新商品の登場とともに市場規模が拡大しております。直近においても、数量ベースでは10%前後増加しており、今後もその傾向は続くものと考えられます(表8)。

CRT-D(不整脈事業)

● CRT-Dの市場規模 (表9)



資料：㈱アールアンドディ「医療機器・用品年鑑 2012年版 No. 1」より抜粋（平成24年は予測）

CRT-D

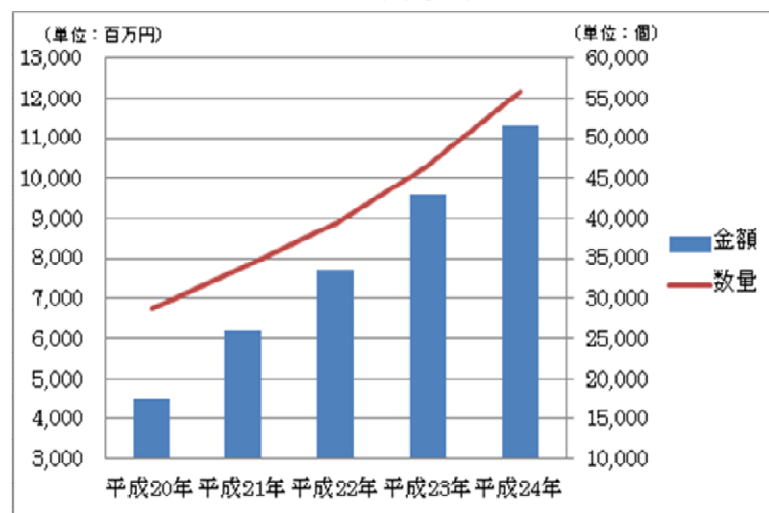
(両室ペーシング機能付き植込み除細動器)



CRT-D(両室ペーシング機能付き植込み型除細動器)は、ICDの機能と、心不全の治療の一種である心臓再同期療法の機能を併せ持つ商品であり、平成18年8月に保険適用を受けたものです。それ以降、ICDに比べると適応範囲が広いこともあり、市場規模はICD以上の伸びを示しております。今後も、新商品の投入や適応患者の増加により、増加傾向が続くものと考えられます(表9)。

アブレーションカテーテル(不整脈事業)

● アブレーションカテーテルの市場規模 (表10)



資料：㈱アールアンドディ「医療機器・用品年鑑 2012年版 No. 1」より抜粋 (平成24年は予測)

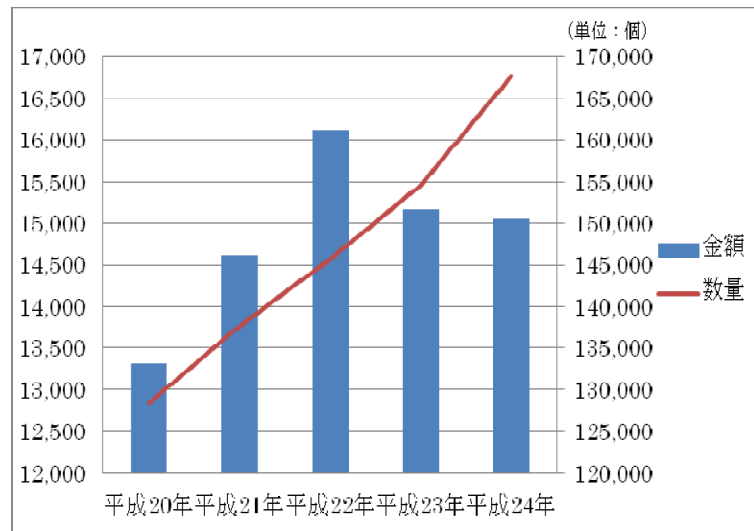
アブレーションカテーテル (心臓焼灼用カテーテル)



アブレーションカテーテル(心筋焼灼用カテーテル)は、頻脈の原因となる心筋組織を焼灼することで治療する商品であります。WPW症候群と呼ばれる症状のほか、房室結節リエントリー性頻拍、心房粗動、心室頻拍に加え、心房細動の治療にも用いられるようになる等、対象となる症例の幅が広がってきたことから、市場規模は年々増加しており、今後もその傾向が続くものと考えられます(表10)。

電極カテーテル(不整脈事業)

●電極カテーテルの市場規模 (表11)



資料：(株)アールアンドディ「医療機器・用品年鑑 2012年版 No. 1」より抜粋 (平成24年は予測)

電極カテーテル(検査用)



電極カテーテルは、不整脈の診断、重症度評価、抗不整脈薬の薬効評価の他に、心臓ペースメーカーやICDの適応決定等、重要な役割を持った商品です。不整脈の症例数増加に伴って、継続的に数量が増加しており、今後もこの傾向は続くものと考えられます(表11)。

なお、平成23年については、数量が増加している中で金額が減少いたしました。これは、従来本商品市場に分類されていたアブレーション機能も併せ持った高価格の電極カテーテルが、アブレーション機能付電極カテーテルとして保険適用となり、これをアブレーションカテーテルの分類に移したことによるものであります。

自動造影剤注入装置(虚血事業)



自動造影剤注入装置(インジェクタ)

心臓の冠動脈の検査は、カテーテルを冠動脈に挿入し、これに造影剤を注入した上で放射線を照射することで行いますが、当社では、この造影剤を自動的に注入する装置を販売しております(商品名「ACIST」)。同市場では、ACISTの他に、競合品として2製品が販売されています。

なお、当社製品を導入いただいている医療施設は、地方基幹病院が多く、稼働率が高いことから装置の消耗品については約60%以上の占有率があると推計しています。

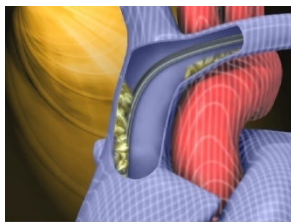
エキシマレーザ血管形成システム(虚血事業)

エキシマレーザ血管形成システム — 心内リード拔去術

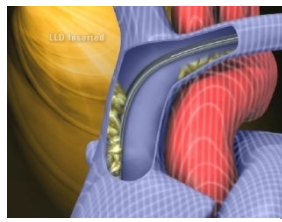
当社が日本国内で独占販売しているエキシマレーザ血管形成システムには、現在日本国内において以下の2つの治療に適用が認められています。

① エキシマレーザによる心内リード拔去術 (2011年9月に当該術式用リードロックングデバイス保険適用)

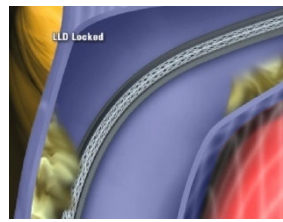
ペースメーカやICD等のデバイスが菌に感染すると、デバイスと心臓をつなぐリード線を通じて全身に菌の感染が広がります。感染を完全に治療するには、感染源であるデバイスやリード線を抜去する必要があります。しかし、リード線は血管内や心臓内に長期間留置されることで、血管や心臓の組織と癒着しており、抜去することが困難になります。レーザシースカテーテルの先端から照射するエキシマレーザにより、リード線に癒着した血管や心臓の組織を蒸散して切除することで、リード線の抜去を可能にします。



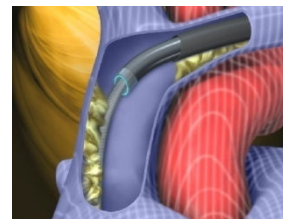
① ペースメーカ、ICD
リード線が癒着



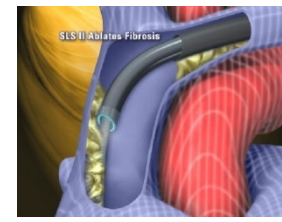
② リードロックングデバイスをペースメーカ等のリード線中空に挿入



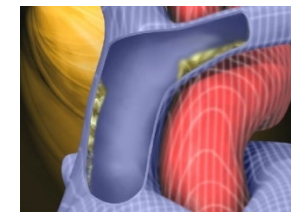
③ リードロックングデバイスを広げペースメーカ等リード線に固定



④ リードロックングデバイスを牽引しながらペースメーカ等リード線にレーザシースをかぶせる



⑤ 癒着部分を蒸散しリード線を血管壁から剥離



⑥ ペースメーカ等リード線を抜去終了

エキシマレーザ血管形成システム(虚血事業)

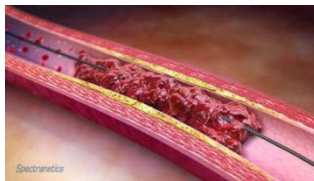
エキシマレーザ血管形成システム — 冠動脈形成術

② エキシマレーザによる冠動脈形成術（2012年7月に当該術式用レーザカテーテル保険適用）

心臓に血液を運ぶ冠動脈が動脈硬化や血栓によって狭窄または塞栓すると、狭心症や心筋梗塞の原因になります。血管内に挿入したエキシマレーザ専用カテーテルの先端から、狭窄や塞栓を起こしている部位にエキシマレーザを照射することにより、プラークや血栓を分子レベルで分解し冠動脈の血流を改善します。

平成24年4月にエキシマレーザ心内リード拔去術の手技(治療行為)が正式に保険収載されました。また、エキシマレーザによる冠動脈形成術も、これまで先進医療としてのみ保険治療が認められていましたが、平成24年4月に手技が保険適用となったのに続き、7月には専用のカテーテルの償還価格が認められたことで、一般の保険診療として治療に用いることが認められました。当社が販売するエキシマレーザ血管形成システムは、この心内リード拔去術や冠動脈形成術に使えるレーザ装置として日本国内で唯一承認された商品です。

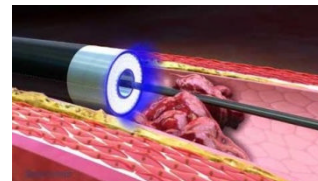
なお、現在国内でエキシマレーザ治療システムによる治療が可能な医療施設は、心内リード拔去術、冠動脈形成術を併せ約30施設しかありません。しかし、特に年間43,000人以上が死亡する急性心筋梗塞やステント治療後の狭窄や塞栓の再発の治療において、エキシマレーザが持つ大きなメリットに対する医師の関心が高まり、冠動脈形成術の本格的な普及がはじまるものと予想しております。



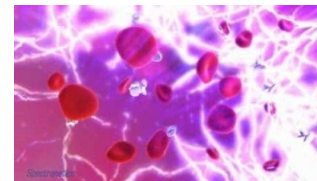
① 病変部へガイドワイヤーを通します



② レーザカテーテルを入れます



③ 病変部へレーザを照射します



④ 病変部が蒸散

Development

Venture

x =無限の可能性

- ◆ 本資料はディービエックス株式会社(以下、当社)の理解を促す参考に資するため、作成したものであり、本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

- ◆ IRについてのお問い合わせ先
ディービエックス株式会社 経営管理部 TEL:03-5985-6827 FAX:03-5985-6106
URL <http://www.dvx.jp/>